

Vol.
10

安く、手軽に、確実に藻場をつくりたい

2021/10/25 取締役 田中 禎孝

弊社は『低コスト、高確度、省力化』の藻場づくりに取り組んでおります。

藻場通信でこれまで紹介してきましたコンブ生育用施設では順調にコンブが生育し、ウニや貝類、魚類、そして、これらを狙って鳥類までも、実に多様な生き物が集まってくるようになりました。たった1.5m×1.5mの施設面積ですが、藻場の機能をしっかり発揮しています。

今やたくさんの生き物が集まるようになりましたが、施設を設置する前の状況はこのような感じです(写真左)。施設設置後(写真右)と比べるとその差は歴然で、不毛な地に息吹が吹き込まれたようです。やはり藻場の重要性を切に感じます。

施設設置前
(上下: 2020年9月)施設設置後
(上: 2021年5月、下: 同9月)

さて、vol.1でご紹介したとおり、この水中カメラ前の「藻場」はどぶ漬けという手法を用いてコンクリート板にコンブの種を付け、それを単管パイプで施設を組み立ててつくっています。実は、この方法は皆様へホームページで公開する3年前から複数の海域で試験を実施しています。これまでのところ、時化による

破損もなく、すべてにおいて順調に繁茂が確認されています。

この施設の特徴は、市販のどこでも入手可能な材料を用いていることからコストを抑えられることです。また、組み立てが容易であり、地形に合わせて自在に形状を変えられ、自由度が高いことも特徴です。基質も手軽に交換可能です。施設ひとつひとつは小規模ですが、小さな「藻場」から新たな種が飛びより大きな「藻場」に拡大する、いわゆる核藻場となることを期待しています。

さらに、弊社では高濃度の種を、生やしたい箇所にピンポイントに、手軽に播く手法についても技術開発に取り組んでいます(特許申請中)。こちらについては、別の機会にご紹介させていただきますが、このように、安く、手軽に、確実に藻場をつくっていくことを目指しております。

自由自在に藻場をデザインできれば、天然コンブ場の維持・再生、ウニやアワビ用の餌コンブ生産はもちろん、ブルーカーボン用藻場の造成、生物多様性の保全・再生、自然環境の保全・再生など、あらゆる場面で貢献することができます。

近年、ESG投資が注目されていますが、藻場づくりをとおして環境、社会、経済をつなぐ一助となれるよう今後も邁進してまいります。藻場づくりで気になることがございましたら、是非ご一報ください！